

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	上村診療所運営事業	会計	一般会計	事業No.	261	施策順No.	32-002
		事業種別	政策・重点	予算科目	4-1-1-24-1		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	保健課		
施策	32 医療の充実			事業期間	開始	17	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市上村地区及び南信濃地区の公立診療所の範囲地区市民数(人口)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)							
		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度			
		対象地区に包括された市民数(人口)		2717	2509	2390	2509		
		当該地区の公立診療所数(国保直診除く)							
			1	1	1	1			
意図	上村、南信濃地域の医療を確保する(へき地医療の確保)								
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)						目標達成度	
		19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	A	
		年間利用者(患者)のべ数	3612	3751	3875	3600	5016	5500	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	9月以降、南信濃地区の患者が増加したこともあり、目的を十分に達成している。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> 診療所の運営に必要な医師・看護師の確保 平成18年3月31日に県派遣医師との契約が終了し、新しい医師を選び契約を締結した。 診療日は週5日 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 診療所運営 2 職員数 医師1名、看護師(臨時1名)、事務(正職1名) 3 レセプトオンライン化	延べ患者数 診療日数	5,016人 242日
23年度実施計画	1 診療所運営 2 職員数 医師1名、看護師(臨時1名)、事務(正職1名) 3 デジタルX線画像診断システム導入	延べ患者数 診療日数	5,500人 243日

3 事業コスト

事業費	特定財源	国庫支出金	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	(国)へき地診療所運営費補助金(2/3) (そ)諸収入(上村診療所雑入)
		県支出金	3,582	3,534	8,694	
		起債			2,000	
		その他	43,740	44,493	33,960	
		一般財源	2,480	785	6,473	
	計(A)	49,802	48,812	51,127		
	正規職員所要時間		2,000			
	臨時職員等所要時間					
	人件費計(B)		7,152			
	トータルコスト A+B		55,964			

4 事業に対する市民や議会の意見

合併協定書により、診療所を引き継ぐこととなった。地域の方々からは、診療所はなくてはならない施設であり、是非継続して運営してほしいとの声。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	医療が必要な人が必要な医療を受けられる。	施策の成果指標又はムトス指標	かかりつけ医を持つ市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	旧上村、南信濃村の住民の一次医療を担う公の医療機関を継続して運営していくことは、必要な医療を受けられるために必要である。旧上村地区の唯一の医療機関(歯科を抜く。)である。		
	後期に向けた課題	南信濃地区の片町医院が閉院したことに伴い、上村・南信濃地区の一次医療を担う公の医療機関として、その役割が更に重要となる。		必要な医療が受けられていると感じる市民の割合
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	レセプトのオンライン化を実施。患者数の増加に伴い、一部の薬を院外処方とする。		
	後期に向けた課題	医療設備の老朽化に伴う施設整備		
コストを削減するためにどのような工夫をしてみましたか	4年間の振り返り	レセプトのオンライン化		
	後期に向けた課題	患者数増加による医師等の報酬の検討		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	民間の医療機関が上村地区になく、上村・南信濃地区の唯一の公設医療機関で、安心感がある。		
	後期に向けた課題	診療所を運営継続していくために、医師・看護師の確保を含め、市が関与していく必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を発揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り			
	後期に向けた課題			
全体を通じて	4年間の振り返り	医師の交替も無く、継続して診療に当たる体制ができていることで、住民に対しては安心感がある。		
	後期に向けた課題	継続して診療に当たってもらえるように、体制を整備していく必要がある。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	--